

# 家康公の定番!スポット

家康公の勢力を示す城と、運命を分けた合戦の地へ。  
城を巡りながら大きな戦いを繰り返して勢力を伸ばしていった、その生涯を感じたい。

静岡・浜松

## 4 浜松城(浜松城公園)

はままつじょう(はままつじょうこうえん)

東部進出の足がかりに、17年を過ごした出世城

家康公が築城し、29歳から45歳までの17年間を過ごした城。天下を取った家康公のほか、歴代城主が幕府の要職に多く登用されたことから「出世城」と呼ばれるようになった。2022年12月下旬にリニューアルオープンする予定。隣接地に大河ドラマ館が2023年1月22日(日)にプレオープンし、2023年3月18日(土)にグランドオープンの予定。



☎ 053-453-3872 ● 静岡県浜松市中区元城町100-2 ● 8:30~16:30(入場~16:20) ● なし ● ¥200 ※浜松城公園は入場自由

静岡・浜松

## 5 三方ヶ原古戦場

みかたがはらこせんじょう

戦国最強の武田軍から、命からがら敗走した

遠江国へ進出する武田信玄を迎え撃つ家康公。軍が浜松城を通り過ぎるように見せた信玄の策略に引っかかり、背後から討つために追撃。これにより武田軍の得意な野戦に誘い込まれ、徳川軍は総崩れになってしまった。約1000人の戦死者を出し、家康公も討死寸前で浜松城へ逃げ帰る大敗北だった。



☎ 053-452-1634 (浜松観光インフォメーションセンター) ● 静岡県浜松市北区横洗町(三方原墓園駐車場敷地内) ● ● 見学自由

関連する人物

**武田信玄**  
たけだしんげん

「甲斐の虎」と呼ばれて、当時最強と恐れられた武将。上杉謙信と何度も戦った川中島の戦いが有名。

愛知・新城

## 6 設楽原決戦場(設楽原歴史資料館)

したらかはらけっせんじょう(したらかはらけしきしりょうかん)

武田騎馬軍を破った戦いを実感できる

設楽原決戦場の跡に建つ資料館ならではの、設楽原布陣図や信玄砲といった、多くの資料や文献などが見られる。火縄銃や設楽原から出土した鉄砲玉、鳥居強右衛門様図のほか、設楽原の決戦での戦没者を弔うために地域の人々が始めた祭り、火おんどの紹介などもされている。



☎ 0536-22-0673 ● 愛知県新城市竹広字信玄原552 ● 9:00~17:00(入館~16:30) ● 火(祝日の場合は翌平日) ● 入館¥330

歴史トリア

**鳥居強右衛門**  
とりいすけとよぶ

長篠城で家康公へ援軍要請をする役を買って出た足軽。武田軍に捕まり「援軍が来ない」と嘘を伝えるように脅されたが、「援軍が来る」と叫んで殺されてしまったヒーロー。

愛知・岡崎

## 1 大樹寺

だいいじ

桶狭間の戦い後、浄土を目指すことを決意

松平家・徳川将軍家の菩提寺。桶狭間の戦いから逃げ帰って自害しようとした家康公は、善上人からの「厭離穢土欣求浄土」の言葉により、太平の世を目指す決意をしたという逸話が残る。大樹寺と岡崎城を結ぶビスタラインの眺望景観のほか、宝物殿・大方丈拝観では歴代将軍の等身大の位牌などが見られる。



☎ 0564-21-3917 ● 愛知県岡崎市鶴田町字広元5-1 ● ● 境内自由 ※宝物殿・大方丈拝観は● 9:00~16:00(拝観受付~15:30) ● なし ● 拝観料¥400(23年1月から¥500)

愛知・岡崎

## 2 岡崎城(岡崎公園)

おかざきじょう(おかざきこうえん)

家康公生誕の城

家康公が桶狭間の戦い後に、19歳で城主となった岡崎城。岡崎城と三河武士のやきた家康館は現在リニューアル中で、2023年1月21日(土)にオープンする予定(三河武士のやきた家康館は大河ドラマ館としてオープン予定)。岡崎公園内には家康公の銅像や産湯の井戸などもあり、週末はグレート家康公「笑」武将隊の演武なども見られる。



☎ 0564-22-2122(岡崎城) ● 愛知県岡崎市康生町561-1 ● 9:00~17:00(入館~16:30) ● なし ● ¥300 ※岡崎公園は入場自由

愛知・豊橋

## 3 吉田城(豊橋公園)

よしだじょう(とよはしこうえん)

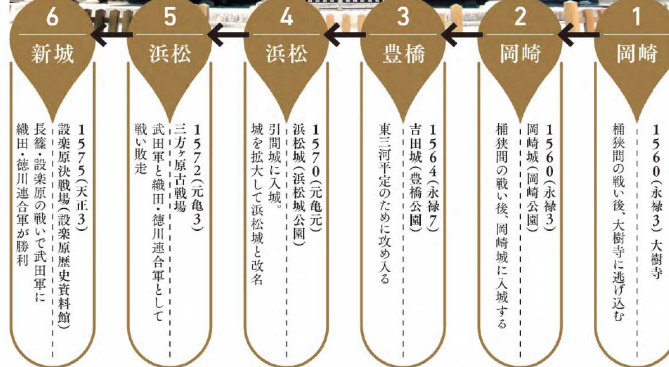
交通の要衝であり、三河平定の重要拠点

東三河の拠点として家康公が攻略し、城主に酒井忠次を据えた吉田城。後に姫路城を築く池田輝政が大改修した鉄橋下の石垣などが見られるほか、忠次が長篠・設楽原の戦いの褒美として信長から贈られた羽羽織の復元展示もある。2023年は石垣の工事が予定されているため、貴重な石積み作業の様子を見られるかもしれない。



☎ 0532-51-2430(豊橋市観光プロモーション課) ● 愛知県豊橋市今橋町3 ● 10:00~15:00 ● 月(祝日の場合は営業) ● 無料 ※豊橋公園は入場自由

大樹寺



東西の強者に挟まれて生き延びる術を求め、徳川の乱以降に始まったとされる戦国時代。駿河の今川家や甲斐の武田家などの守護大名が発展を遂げていた。三河では1530年代に松平家が勢力を伸ばしていたが、徳川家康公の祖父にあたる松平清康の暗殺事件「守山崩れ」によって衰退を余儀なくされた。その頃、隣国である尾張の織田家は勢いを増しており、美濃の斎藤家の台頭も脅威となっていた。東側に今川や武田、西側に織田や斎藤といった強者に挟まれ、弱小化した松平家は窮屈な時代を過ごしていた。そうした流れの中で

1542(天文11)年12月26日に家康公は誕生する。戦国時代のせめぎ合いは、家康公にとって幼少期の人質や誘拐などの悲しい出来事の原因であり、今川からの独立の契機になった桶狭間の戦い、武田軍に惨敗した三方ヶ原の戦い、武田軍に打ち勝った長篠・設楽原の戦いといった数々の合戦も繰り返されることになった。織田家と同盟を結び、岡崎城から吉田城、浜松城へと、東に向かって重要な城を押さえていったことも特徴的だ。家康公が天下人として開いた江戸幕府は約260年も続いた。平和への思いを強く持っていた家康公の生涯を辿り、その心を感じてみたい。

# 1 戦国を生き抜いた家康公の軌跡を巡る

家康公の人生において、三河や遠州は幼少期や19歳~45歳までの激動の青壮年時代を過ごした地域。このエリアでの経験や学びが、天下安寧の時代を築く礎になったとされている。